

# 福井コンピュータ株式会社

(証券コード:9790)

## 平成22年3月期決算説明資料

2010年5月

- 1--業績の概況
- 2--経営指標の推移(連結)
- 3--経営指標の推移(単体)
- 4--セグメント情報① 一事業の種類別・売上
- 5--セグメント情報② 一事業の種類別・損益
- 6--平成22年度見込(連結)
- 7--平成22年度見込(単体)
- 8-- 1株当たり純資産額の推移(連結)
- 9-- 1株当たり当期純利益の推移(単体)
- 10--有利子負債の推移
- 11-- 1株当たり配当額の推移

## 【業績の概況】

### 増収増益決算 経常利益は5億円強(前期は赤字)

#### 《連結》

売上高 64.5億円 営業利益 4.8億円 経常利益 5.3億円 当期純利益 2.3億円

#### 《単体》

売上高 63.6億円 営業利益 4.7億円 経常利益 5.2億円 当期純利益 2.3億円

#### 《対前期》

売上高---連結で0.6億円の増加(前期比1.0%増)

営業利益---不採算事業撤退、経費削減効果により連結で5.5億円の増加

経常利益--- " " 6.1億円の増加

## 【経営指標の推移(連結)】

		平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	前期比
売上高	(億円)	75.7	63.9	64.5	0.6
営業利益	(億円)	7.6	-0.6	4.8	5.5
経常利益	(億円)	8.2	-0.8	5.3	6.1
当期純利益	(億円)	4.4	-3.8	2.3	6.2
純資産額	(億円)	63.9	52.6	55.5	2.8
総資産額	(億円)	86.1	70.3	77.6	7.3
有利子負債	(億円)	—	—	—	—
1株当たり純資産額	(円)	506.21	458.36	481.38	23.02
1株当たり当期純利益	(円)	35.47	-31.16	20.84	52.00
株価収益率	(倍)	16.3	—	15.1	—
株価	(円)	578	287	314	27

## 【経営指標の推移(単体)】

		平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	前期比
売上高	(億円)	75.3	63.5	63.6	0.0
営業利益	(億円)	7.7	-0.5	4.7	5.3
経常利益	(億円)	8.2	-0.7	5.2	5.9
当期純利益	(億円)	4.5	-4.8	2.3	7.1
純資産額	(億円)	64.9	52.6	55.2	2.6
総資産額	(億円)	86.9	70.3	76.9	6.6
1株当たり純資産額	(円)	514.09	458.58	481.22	22.64
1株当たり配当額	(円)	27	0	10	10
1株当たり当期純利益	(円)	36.19	-39.38	20.11	59.49
配当性向	(%)	74.6	—	49.7	—

## 【セグメント情報① – 事業の種類別・売上】

単位：億円

	平成21年3月	平成22年3月	前期比
建築CADソフトウェア	30.2	32.0	1.8
測量CADソフトウェア	14.8	13.5	-1.3
土木CADソフトウェア	9.2	9.8	0.5
サポートサービス	4.3	4.2	-0.1
ハードウェア	2.5	2.3	-0.1
建設系CAD事業	61.1	61.9	0.8
メディカルF事業	0.1	—	-0.1
ITソリューション事業	1.5	2.4	0.9
その他の事業	1.1	0.1	-0.9
合計	63.9	64.5	0.6

## 【セグメント情報②—事業の種類別・損益】

単位:億円

	売上高	営業損益	
建設系CAD	61.9	9.9	<p>○建築CADソフトウェア ---- 売上高は3,200百万円で、前年同期に比べ180百万円の増加。                      新設住宅着工戸数の低迷が続く中、持家住宅の新規着工戸数が11月より増加したことに加え、10月に主力商品のバージョンアップ版(3次元建築設計システム「ARCHITREND Z Ver.5」)の発売、新商品(BIM建築設計システム「GLOBE(グローブ)」)発売の相乗効果もあり、既存顧客からの売上増加につながる。</p> <p>○測量CADソフトウェア ---- 売上高は1,353百万円で、前年同期に比べ133百万円の減少。                      政府の景気対策により公共事業を中心とする測量業、コンサルタント業において売上高が増加しましたが、民間需要を中心とする土地家屋調査士業において新規住宅着工数の減少、不動産業の不振による影響を受け、売上高が伸び悩む。</p> <p>○土木CADソフトウェア ---- 売上高は987百万円で、前年同期に比べ59百万円の増加。                      政府の景気対策による公共事業費が増加したことで、主要顧客の土木施工業からの売上高が増加しました。また、主力商品である「EX-TREND 武蔵2010」のバージョンアップ版を昨年10月に発売したことで既存顧客からの売上高も増加。</p>
メディカルF	-	-0.4	昨年6月30日をもって撤退。これにより営業損失は44百万円(前期は営業損失322百万円)。
ITソリューション	2.4	0.4	昨年8月の第45回衆議院総選挙において、出口調査システム「One Click Counter」が幅広く利用されたことに加え、その実績を元に地方選挙でも利用が広がったことから、大きく売上高が増加。
その他	0.1	-0.2	唯一のスクール事業は昨年7月31日をもって撤退。
消去又は全社	-	-4.8	※ 消去又は全社---各セグメントに配賦不能な収益または費用
合計	64.5	4.8	

## 【平成22年度見込(連結)】

単位: 億円

	平成22年3月実績	平成23年3月見込	前期比
売上高	64.5	64.8	0.2
営業利益	4.8	5.3	0.4
経常利益	5.3	5.6	0.2
当期純利益	2.3	2.8	0.4

### 【CADソフトウェア事業】

建築CADソフトウェアでは国の住宅施策において、長期優良住宅普及促進法に加え、3月より開始した大型投資の住宅エコポイントの施策の浸透により、住宅着工戸数は回復が見込まれます。次に測量CADソフトウェアでは、公共事業費削減の影響を受け測量業については非常に厳しい状況が見込まれますが、不動産取引に回復傾向が見られることから土地家屋調査士業については当期を上回ることが見込まれます。また、土木ソフトウェアでは、公共事業費が大幅に減少する見通しであることから大きな収益増加は見込めませんが、地方自治体の建設CALS/ECの普及と情報化施工の実用化が進み、官公庁及び建設業でのIT投資が見込まれます。次期におきまして、建設系CAD事業ではこれらの要因を踏まえた販売政策を実施し、収益向上に努めてまいります

### 【ITソリューション事業】

7月に行われる参議院選挙に向け、出口調査システム「One Click Counter」の拡販に向け活動してまいります。また、宿泊予約システムの販売強化を図るとともに、新たな収益源としての新商品の研究開発を進めてまいります。

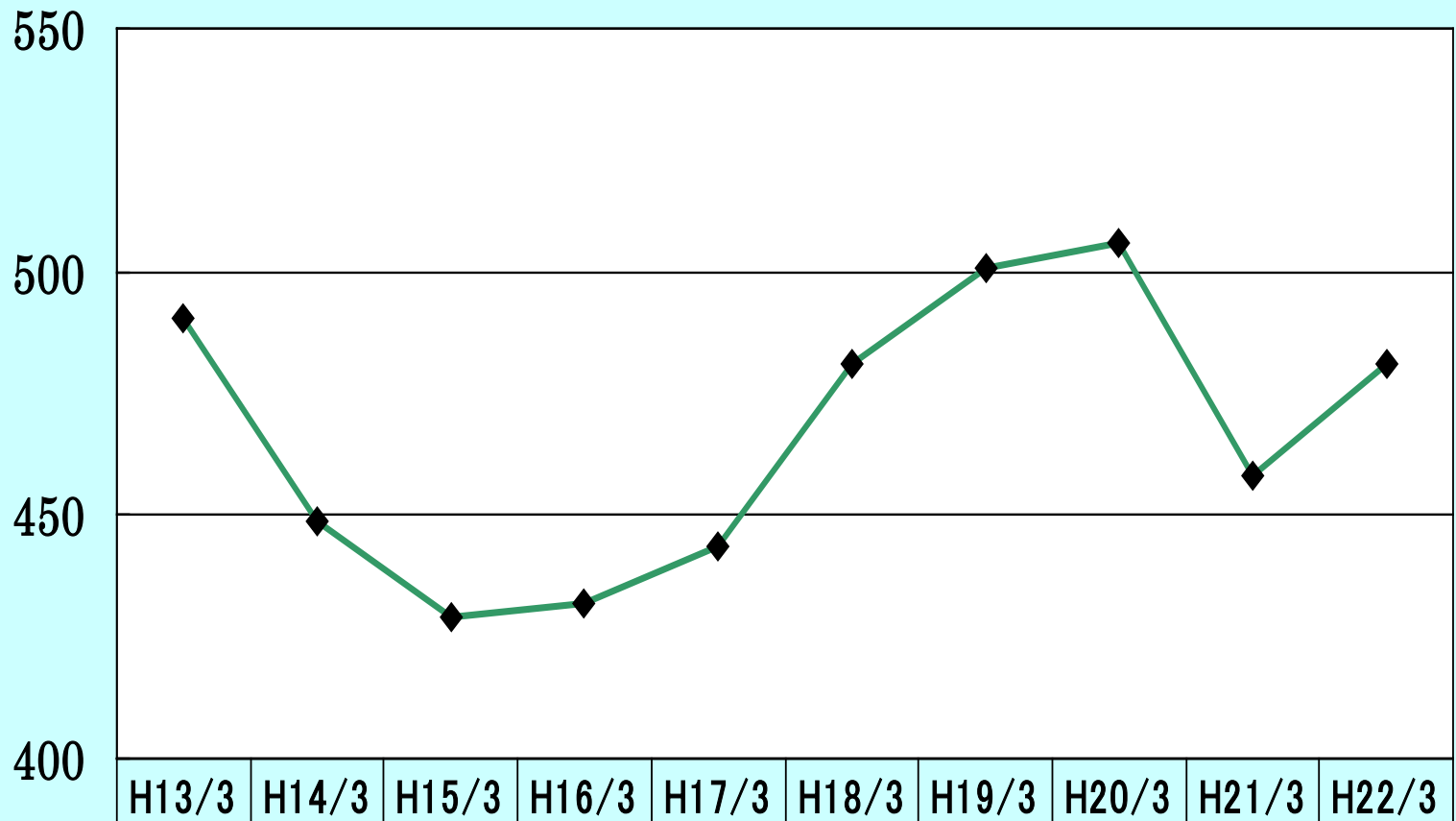
## 【平成22年度見込(単体)】

		平成22年3月実績	平成23年3月見込	前期比
売上高	(億円)	63.6	63.7	0.0
営業利益	(億円)	4.7	5.2	0.5
経常利益	(億円)	5.2	5.5	0.3
当期純利益	(億円)	2.3	2.8	0.5
1株当たり配当額	(円)	10	10	-
1株当たり当期純利益	(円)	20.11	24.72	4.61
配当性向	(%)	49.7	40.5	-

2011(平成23)年3月期の年間配当額は、目標配当性向を40%以上(単体)とし、10円(中間配当 0円、期末配当 10円)を予想しております。

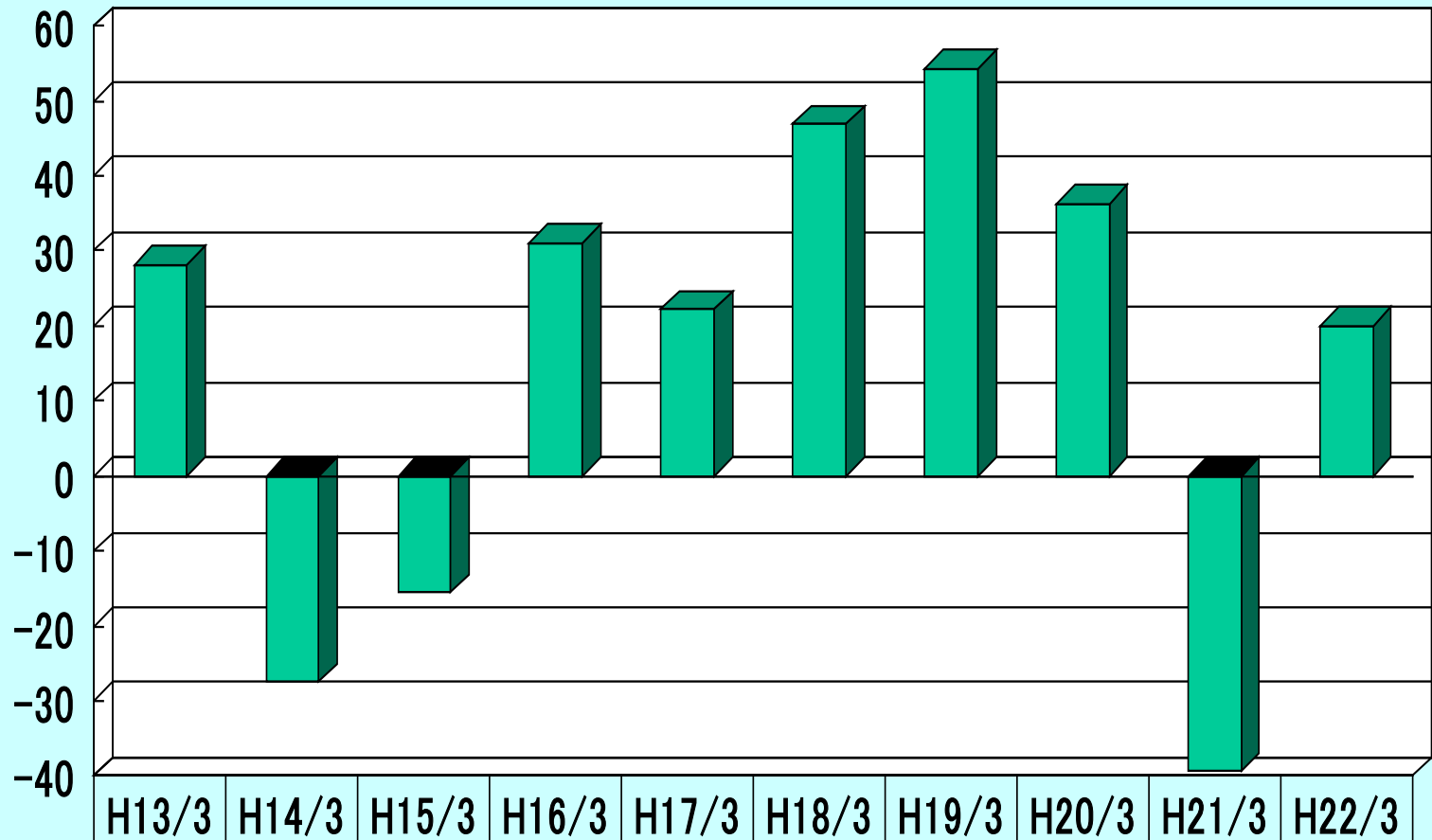


【 1株当たり純資産額の推移(連結) 】 (単位:円)



◆ 1株純資産	491	449	429	432	444	481	501	506	458	481
---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

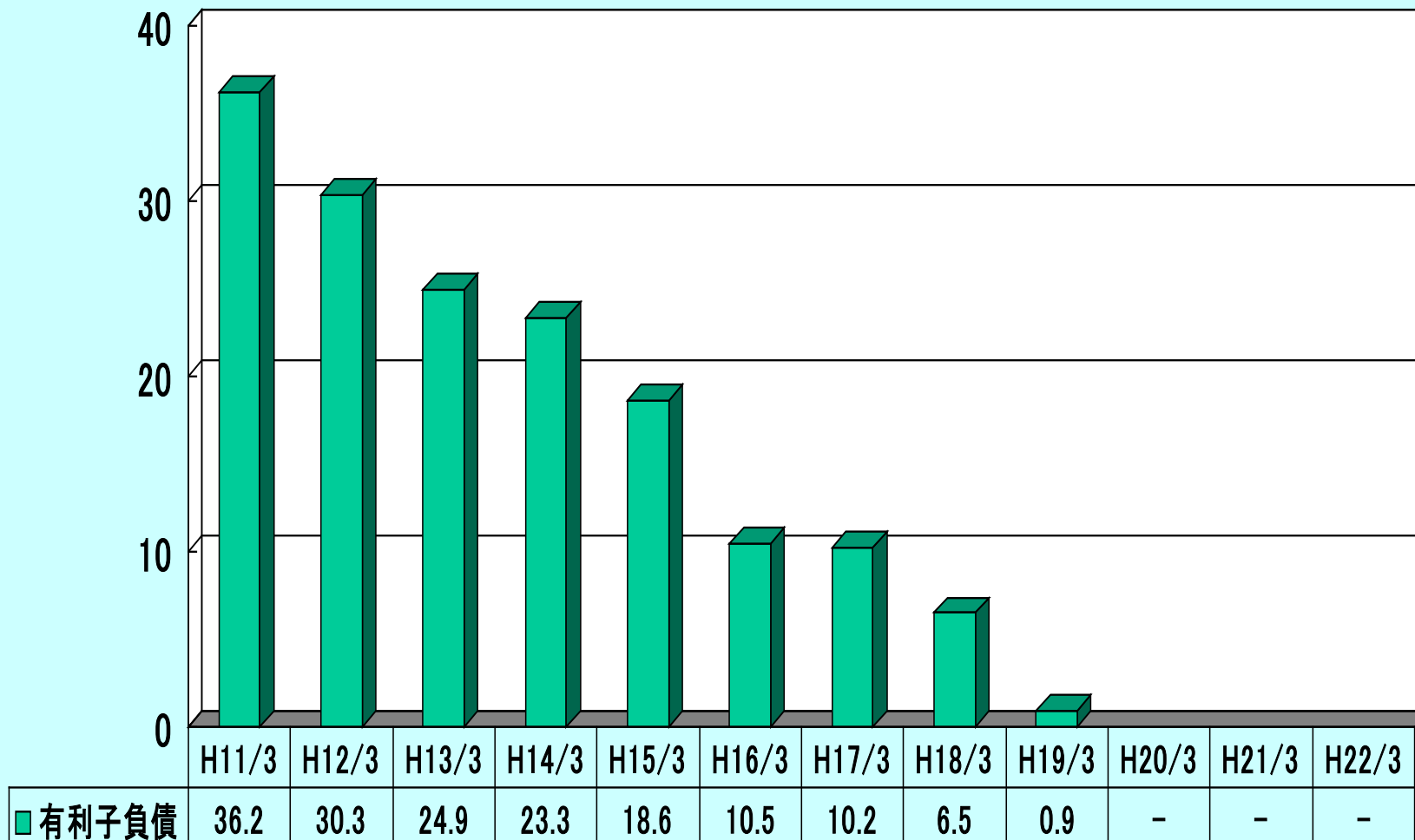
## 【1株当たり当期純利益の推移(単体)】 (単位:円)



■ 1株純利益

28.2	-27.5	-15.6	31.0	22.2	46.9	54.2	36.2	-39.4	20.1
------	-------	-------	------	------	------	------	------	-------	------

## 【有利子負債の推移】(単位:億円)



## 【1株当たりの配当額の推移】

当社は、2005年11月より、「安定的かつ継続的な利益還元」から「配当性向を重視した業績連動」型に配当政策を変更し、目標配当性向を40%以上(単体)といたしております。

したがって、当期末の配当は10円を予定しております。

